

hiyokuno
torikago

飛鷹調教
報告書

HIYOU
AVENGE
PORNO
FILE



BOTTOMRESSPIT





□はじめまして&おひさしぶりです。
今回は艦これ軽空母飛鷹本に
なりました。
艦むす描きたかったんだよね!

比翼の
鳥籠

一面コンクリート打ちつばなしの部屋
窓には鉄格子がはめられている。
家具といえば簡素なパイプベッドだけで
まるで牢獄のようだ。

カクカク...

部屋の中央に
ぼつんとおかれた椅子
パンツ一丁の提督が
縛り付けられている。

意識を失っていた男が
ほぼ全裸の寒さに
ふるつと
震えて目を覚まし
自身の状況に気が付き
素っ頓狂な声をあげる

鬼畜提督

なんだよ
これは!

言い残すことは
何かあって?

秘書艦：飛鷹
Lv99

ふと男が顔をあげると眼前に
彼の秘書艦である飛鷹が
仁王立ちで立っていることに気がつく。
その表情はまるで
養豚場の豚を見るような
哀れみと蔑みに満ちた表情である。

ほ、僕が
何をしたっていうんだよ!
お、落ち着け!
何かの誤解だ!

ひ、飛鷹?

ひいっ!



言わないと
分からないの？
駄犬

駄犬！

上ずった男の哀れな声に
飛鷹の表情に紛れも無く喜悅…
嗜虐心を満たされた邪悪で
淫靡な笑みが浮かぶ。

そうよ、何度言っても
理解しないんだから
駄犬よ、だ・け・ん！

いつも男に優しく笑いかけ
少し高飛車な所こそあるが
ベッドの中では従順な飛鷹が
別人のように男を罵る
男はショックのあまり
絶句してしまう。

いいわ、最期ですものね



ばさつと床に書類が投げ出され、男が息を呑む。
表紙には鎮守府近海哨戒任務と書かれており、
最近浸透してくる深海棲艦の潜水艦の駆逐任務の概要書であった。

潮に浦風に浜風……
意図が見え見えなのよ！

問題は選ばれたメンバーと
その書類に必要な以上のデータ、スリーサイズやら交友関係、好き嫌い、
あげくにはどこでとったのか水着姿の写真まで添えられていることだった。

对潜任務の
得意な娘を
選んだだけだ？
ひいつ！

言い訳はいらないわ…
このロリ巨乳好きの
変態糞提督！

ずどん、と
書類を貫く軍刀。
縮み上がる男、とその辜丸
必死に言い訳をしようと
するが…

对潜任務になんで
スリーサイズが必要なのよ！
どうせいやらしいこと
しようとしていたんでしょ！

知ってるのよ
特殊任務の遠征と称して
新任の娘たちを
おかしな場所に
送り込んでいるって！

ち、ちがっ！



軽巡までは我慢したわ
でも駆逐艦の娘まで手をだそうなんて…
見下げ果てたわ…

せめて
私の手で逝かせてあげるのが…
最後の慈悲よ

悲しげに言い
飛鷹が大上段に軍刀を振りかぶる。
明確な殺意に男の心が折れる。

嗜虐心溢れる
実に淫靡な笑みを浮かべて
飛鷹が言う。

待ってくれ！
あ、謝る！
殺さないでくれ！

…二度と他の女に
ちよっかいださないうって
約束できる？

す、するー誓うよ！

ふふふ…
でも躰は必要よね

誰がご主人様か
頭じゃ理解できない
みたいだから

へ？

身体に
教えて

あ・げ・る

持
ま
ん

っ

袴がすりと床に落ち下着を脱ぎ始める飛鷹

!?

検閲
検閲
検閲
検閲

脱いだ下着を提督の頭からかぶせ顔を覆い隠す。ちようどT督のTの字を反対にしたようになる提督。

え？なにお仕置きってそういうこと？
もう飛鷹ってばツンデレさん

73

検閲
検閲

男の股間の間に身体を入れた飛鷹が手にしていたもの。理容室で顔を剃るのに使う道具一式であった。シェービングブラシでたっぷりとしヤボンが男の陰毛に塗りたくられる。

暴れると危ないわよ

や、やめて！

アソコの毛剃られながら勃起するなんてとんだ変態ねえ：やっぱ去勢しないとダメかしら

まるで汚物でも触れるかのように男の陰部を指先で摘んでどかし容赦なく剃毛を開始する。ジヨリジヨリと嫌な音共に男の陰毛が剃り落とされてゆく。

昔私にしたことじゃない
忘れたとは言わせないわよ

あ、ああ…やめて…
やめてください…

検閲

：「私は剃毛されながら勃起しちゃう変態です」って言いなさい、そうしたら去勢は勘弁してあげる

カミソリをちらつかされる恐怖と、巧な飛鷹の愛撫による快感、相反する感情に男の精神がきしみを上げる。

震える声で屈辱的なセリフをときれとぎれに宣言する提督にかつての自分のぶざまな姿が脳裏をよぎり飛鷹の嗜虐心はますます高ぶっていく…

よくなりました、
いいこねえ…ふふ

ばんばんに膨らんだ肉棒から
飛鷹の手が離れる。
パイプ椅子に腰を下ろし
靴を脱ぐ。さきほどまで
足袋に包まれていた白い足先が
男の股間へと伸びる。

そんなに怖がらなくても大丈夫よお、
別に潰そうってんじゃないわ…
気持よくしてあげる

女の子みたいな声
いやねえ気持ち悪い

もう出そうなの？
ビクビクしてるわ…
早漏

変態
足で乱暴に弄られて
びくびくしちゃって
みっともないったら

そういう飛鷹の表情もまた
快楽に支配されていく、
上気した頬、潤む瞳。
ブラウスのボタンを外し
はだけさせると、
自分の乳房を見せつけるように
もみ始める飛鷹。

限界に達したのだから
男が射精がする。
びゆるびゆると多量の静止が
先端が吹き出し、飛鷹の足を汚す。

オチオチ

検閲
検閲
検閲
検閲
検閲

検閲
検閲
検閲

検閲
検閲

検閲
検閲
検閲

はあ

ひい

ひあ！

全図

椅子が蹴られ、男ごと倒れる。床に惨めに打ち付けられた男の口元に飛鷹の足が伸びる。床に惨めに打ち付けられてた

誰が出して良いって言った？

罰よ…舐めてキレイにしなさい

屈辱的な命令。しかしすでに男の理性はこわれていた。命じられるままに自身の精液で汚した飛鷹の足を舌で清める。

ひゃあひゃあひゃあ

検閲
検閲
検閲
検閲

検閲

口いっぱい広がる生臭さと喉に絡みつく精液の感触男はぼろぼろと泣きながら夢中で飛鷹の足を犬のように舐める。

いつまで舐めてるのよ
気持ち悪い……やだ
泣かなくてもいいじゃない？

ちゃんと飲み込みなさいよ…
どう？美味しい？
私が嫌って言ったのに
無理やり飲ませた時のこと覚えてる？

検閲
検閲
検閲

しゅ

検閲

ひつ 飛鷹の子宮工廠に
建築資材発射して
新造空母建造
したいんです

フン！あなたの
粗末な主砲なんて
私の廃棄物処理孔で十分よっ

ばんばんに勃起した肉棒を尻穴でねっとり犯す。
根本まで飲み込むときゅっと括約筋を閉めて男根を締め上げる。
絶頂にも似た激しい痙攣を起こす男、しかし射精には至れない。
それが何度も繰り返されていた。

出したいの？

フフどこになにを
出したいのかしら？

ベッドに手足を
縛られている提督の上に
跨がり飛鷹が騎乗位で腰を振る。
肉棒の根元を禁の術で縛られ
発射できない提督。

おかしくなっちゃう
くるっちゃうよお
ゆるしてえ、しやせえ、
しやせえさせて
ください

くす、いい声...

お

フ

フ

お

お



女のように泣き叫ぶ提督に
満足したのか飛鷹は射精を許可する。
どぶどぶと飛鷹の直腸に
精子が注がれる。

んっ…あっ…

内臓に叩きつけられる
射精のあまりの勢いに
軽く絶頂に達する飛鷹。
秘裂から愛液がほとぼしる。

しよ…消火ポンプが故障って…
どういことよ……

あっ、ああ
ひよお、ひよお
飛鷹おおおうッ

検閲

検閲

検閲

検閲

検閲

検閲

検閲

検閲

検閲

検閲

検閲

検閲

感極まったように飛鷹を呼ぶ提督を他所に、
そこそこ満足した、といった感じで
飛鷹は余韻も何もなく
ずるつと腰を上げてペニスを引き抜く。
そのままぐいっと
尻穴をだらしなく開いたままの
男の口に押し付けた。

尻穴を緩め、
腸液まじりの精液を男の口に流し込む。

泣きながら飛鷹の尻穴を
舌で清める男

美味しい？
ほら飲みなさい
吐いたら許さないわよ

あなたが汚したのよ
キレイなさい、あなただって
同じことさせたじゃない、
忘れちゃった？

ほら、早く……
ちやんとできたら
今度は優しくしてあげるから

んぶふうっ

検閲

んぶっ

んう、んー！

検閲

萎えたペニスを優しく握ると
懐から細い棒状のものを
取り出す飛鷹。

検閲
検閲
検閲

医療用の尿道拡張ブジーよ

限界を超えた尿道から
飛鷹の顔面めがけて真一文字に
白濁液が発射した。

尻穴をなめさせながら
提督の尿道に
金属のスティックを突き刺す飛鷹

ひい怖い怖いやめてえ

え？なに？ひぐううう！

ほらほらおクチがおるすよ！
しっかりと尻を清めない
とやめてあげないわよ

あらあら
射精しながら轟沈なんて
だらしない軍人さんねえ…
くすくす

…それとは裏腹に
提督の意識は
真つ暗な闇の底に沈んでいった



んっおお!!

提督の私室
ベッドの上。
覚醒と同時に
悲鳴を上げて
飛び起きる提督。

夢? そうだ、
あんなの夢に決まってる

提督?

裸シャツの飛鷹が起きて
眠そうに目をこすりながら
声をかける

どうしたのよ、
怖い夢でも見たの?

飛鷹……聞いてくれ

何い?
また浮気した後の
言い訳?

ドキ

ち…違う
これを受け取って欲しい

感極まって、笑みのまま泣く飛鷹。
その笑顔に心臓がどくと高鳴る、
我慢できず提督は飛鷹を押し倒した。

本気なの…？

本気だよ
ケッコンしよう
飛鷹

嬉しい…

提督を抱きしめ返す飛鷹。
…その顔には
昏い愉悦に満ちた淫靡な笑みが浮かんでいた。

愛してるわ…私"だけ"の提督…

ベッドの脇のサイドボードから
指輪の入った箱を取り出し飛鷹に見せる。

飛鷹の左手の薬指に指輪を嵌め、
ペアのリングを自分の指にはめる提督。

口どもBOTTOMRESSPITの盆座です。今回は10年来の
ゲーム仲間、窓さんに原作&テキストを担当してもらいました。
本文の内容は私の強い希望でいつものアレな感じにまとまったけど
当初は純愛路線だったのだ!

初期稿

唐突な男の告白、首まで真っ赤になった飛鷹は口をばくばくさせ
何か言おうとするが言葉にならない。
そんな飛鷹の細いおとがいに男は手をのぼした。
やや童顔気味の飛鷹のまんこはせほかわいそうなくらい真っ赤で、
瞳には涙が浮かんでいる。
くいと顎を上に向けさせる。
飛鷹も男が何をしようとしているのか察したのか、
ぎゅっと目をつむる。
子供のような仕草に苦笑しつつ、男は飛鷹の唇を奪う。
ちゅ、と啄むような接吻。

「ばっか!」
唇を離すと飛鷹が怒りはじめる。
駄々っ子のようにばかばかと男の胸板を叩く、
か勢いがまったくないので少しも痛くない。

「初めてだったに…ばっか!、子供扱いして!ばかばかばか!」
どうやらあまりロマンチックでなかったのがお気に召さならしい。
「だが、飛鷹、大人のそれをすると俺ももう我慢できないぞ?」

いいのか?と問う。
呼吸困難なのか赤を通り越して青くなった飛鷹は酸欠の金魚のように
ばくばくと口を開いて……観念したように、ぎゅっと男に抱きつく。

「や、優しくしてくれなさいや」
「Yes, MyLady」

慣れた様子で飛鷹を抱きかかす。
急に抱きかかえられた飛鷹が可愛らしい悲鳴を上げて男にしがみつく。
その頬にちゅとキスをして男は隣室の仮眠室に向かう。
ドアの外で飛鷹と千歳がハイタッチを交わした。

簡素なベッドにそとと飛鷹を下ろすと、ドアに鍵をかけ
制服の上着を脱いでベッドに戻ってくる。
ベッドの上で小動物のように震える飛鷹を抱き寄せ唇を奪う。
今度は大人のキスである、唇を割って舌が飛鷹の口内を犯す。
淫らな水音が静かな室内に響く。
濃厚な接吻を交わしながら、男は器用に飛鷹の衣服を剥ぎとっていく。
上着を脱がせ、袴の帯を緩めたあたりで
腰にきたのか飛鷹がくにくりと崩れ落ちる。

乱れた衣服の隙間から漏れる肌色はすっかり桃色に染まり
荒く呼吸を繰り返して快楽に耐える飛鷹は美しかった。
ブラウスのボタンを外し乳房を露出させる
清楚なデザインのブラジャーのフロントホックを外すと
ぶるんとハリのある乳房が震える。
重量に負けて潰れる前に両手を乳房に添えとゆっくりと愛撫する。

「やっ…あ!」
ここまで必死に声を漏らすのを耐えていた飛鷹が初めて声をもらった。
ぶっくりと膨らんできた乳首を口に含み舌先で転がす。

「ひゃ!?!」
びくんと飛鷹の肢体が弓なりに反れる。
「敏感だな、飛鷹は」
「ふう…う、んんっ!」

男の手がうごめく度、いやいやするように飛鷹は首を振って抑えたいあえぎを上げる。
「ちょっと…まって…」
男の指が飛鷹の下腹部から股間へと滑るのを飛鷹は押しとどめる。

「飛鷹?」
「わた…しも…あなたに…」

何事と問う男に、恥ずかしさに頬を染めながらそとと飛鷹の手が男の股間に伸びる。
「ふむ、では二人で、一緒にな」
「え?」
「尻をこっちに付けて、ほら」

「提督う、お強いんですね、はいもあ一杯」
空にしたばかりの杯に並々と酒が注がれる。
どうしたものかと思いつつ、男はそれを飲み干した。
「ひゅー、いい飲みっぷり、ささもう一杯」
「俺を酔い潰してどうするつもりだ?半鷹、千歳」
「うふふふ」 「へへへ」

怪しく微笑む千歳、半鷹。
いさなり執務室に押しかけ宴会を始めたのんべ二人に
男は付き合われていた。
男の趣味で畳敷きの執務室には濃厚な酒気の匂いに満たされていた。
左右に侍る二人が意味もなく身体を寄せてくるので
身体にぼよんと乳房があたってくる。
誘っているのか?と男は思案する。
まあそっちがその気ならこちらとしても遠慮する理由は無いが
どうも裏があるようだ。
さてどうしたものか、と思案していると、
バシンとドアが乱暴に開けられて男の秘書艦…飛鷹が入ってくる。
ざろり、と男をにらむ。

「言っておくが、酒を持ち込んだのも飲み始めたのも
このんべ共だぞ」

飛鷹が口火を切る前に男は機先を制す。
「あちゃー、うるさいのにみつかつちやたー」
「さよほうおひらさねー」
「「ざんねんざんねん」」

胡散臭い棒読みせりつを吐きながら半鷹と千歳がそそくさと退出する。
執務室には男と飛鷹だけが残された。

「……いやらしい」
「おいおい」
「何よ、半鷹と千歳におっぱいおしつけられて鼻の下伸ばして!
みっともないっつら!」

ご機嫌斜めだな、と首をかき上げた。
いさか高飛車な性格の飛鷹だが、こんな風に怒るのは初めてだ。
ざんざんと男を罵る飛鷹を尻目に男は思案にふける
ふと一つの可能性を思い当たる。

「飛鷹」
「何よ!」
「それは嫉妬か?」
「!」

ぼんつと飛鷹の顔が真っ赤になる。どうやら図星らしい。
とすると半鷹と千歳のあれは飛鷹に焼き餅焼かせるための芝居か。
よく見るとドアの影から二人が顔出して笑っている。
サムズアップする二人。
男としては苦笑しかない。

「か、勘違いしないでよ!私は…あ、あなたと私はっ……」
提督と艦娘よ!
それ以上でもそれ以下でもないわ!」

何やら腕をばたばたさせて言い訳する飛鷹。
「俺は違うぞ?」
そう言っ飛鷹の腕を取る。
びくりと震えた飛鷹が振り払おうとするが逃がさない。

「何を言ってるのよ」
「俺は君のことをただの艦娘だとは思ってない」
「な、何を…」
「君を愛してるよ飛鷹、誰よりも」

比翼の鳥籠

締め切り6時間前にこのコメントの依頼がきて
パニックの窓です。arcadiaやらピクシブとかで
二次ss書きをしています。小説とは勝手に違い難儀しましたが
初めての漫画原案たのしかったです。(小並感)
下の駄文はスルーで
お願いしますね...
そのうち清書して
投稿しよう。

「(こんなの……いやなのにい……いいのあ)」

突かれるたびにみっともないあえぎ声をあげる
飛鷹の理性が濡れ落ちて行く。

くいと引っ張られ体を起こされる。
膝立ちになり下から突き上げられながら
延びた男の手が飛鷹の胸をこねくりまわす。
男の腰の動きに合わせて飛鷹の腰もうごめぎ始める。

「もう腰を使うことを覚えるなんて飛鷹は嫌らしいな」

男が意地悪なことを言うてくるが
もはや飛鷹には言い返すだけの理性も残っていなかった。
さっさと目をつむりたであえくことしかできない。

再度押し倒され獣のように後ろから突かれる。

「も……だめえ……いっちゃう、いくの、だめだめえ！」

全身を激しくいれんさせ飛鷹が絶頂に達する。
ぎゅっとちつ肉が収縮し男の肉棒に射精を促す。

くっと歯をくいしばりそれに耐えた男は腰を引いて
肉棒を肉つぼから引き抜く。

「あっ？やあああああ……」

内臓を引き抜かれるかのような異状な快楽に
ひくんひくんとけいれんし飛鷹が再度絶頂を迎える。
その尻へと男は思いぎり白濁液をぶちまけ汚す。

全身を投げ出して小刻みにけいれんする飛鷹の横に男もたおれこむ。
そっと手を伸ばすとさっさと飛鷹が手を握り返してくるのだった。

ぶすっと膨れっ面の飛鷹と向かい合って男は風呂に入っていた。
ようやく結ばれたというのに飛鷹はこ機嫌斜めのままだった。

「はじめてだったに……やさしくしてっていったのに……」

少々激しくしすぎたのがお気に召さないらしい。
男は苦笑すると、そっと飛鷹の手を取り、手の甲に恭しく接吻する。

「何よ
「これを受け取ってくれるかな」
「え？」

どこからともなく男が上品な意匠の指輪を取り出す。
エンゲージリングだ、内側に男から飛鷹へと刻印されている。

「え？嘘」
「本気だよ、いったら愛してるよ飛鷹」

薬指に指輪を通す、当然のようにぴったりサイズだった。

「ひどい！なんでお風呂場なのよあ！」

嬉し涙を流しながら飛鷹が怒る。
これ以上罵られてわたまらないと男は飛鷹の唇をキスで塞ぐのだった。

このあとめちゃくちゃセックスした。(お約束)

「挿入るよ」

潤んだ秘所にゆっくりと挿入する。

「むっ……いっ！」

体内への具物の侵入に顔を歪める飛鷹。

「大丈夫か？」
「てい……とく……」

抱き締めてほしいのだから
腕を伸ばしてくる飛鷹へと握いかぶさるように密着する
飛鷹が男にしがみつこうようにして挿入の具物感に耐える。

「うご……いても……だいたいようぶ……よ」

健気な飛鷹のセリフ。
肉棒に絡みついてくる柔肉の感触に耐えつつ
男はゆっくりとピストンを開始する。

「あっ……やっ……んっ！」

しがみついて離れない飛鷹。
じよじよと苦痛から快楽まじりにあえぎ声が漏れはじめる。
頃合いと見て飛鷹を抱き上げて対面座位に移行する。
ずんと最奥まで貫かれ「むっ！」と悲鳴をあげて飛鷹の身体が震える。
淫らなキスを交れしながら飛鷹の尻肉を掴んで突き上げる男。
一度出したものの、今まで溜め込んでいたぶん我慢がさかない
男の限界がくる。

「出すぞ飛鷹」
「え？……やあ、だめえ、ぬいてえ」

聞き入れず、男は己の欲望を思い切り飛鷹のちつ内へとぶちまける。

「あっ！……やっ……あなたの……あつっい……っつ！」

子宮に流れ込む精液の感触に
軽めの絶頂を迎える飛鷹。
抱き合ったまま二人はびくびくと震える。

肉棒を抜くとちつ内からこぼりと精子が溢れてくる。

「ひどい……くす……ぬいてっていったのに」
「すまん、飛鷹のナカが良さすぎた」
「ほかあ！」

男のいいわけに
怒ったらしいのか、喜んだらしいのか、わからず
飛鷹はばしばしと男の体を叩く。

そんな飛鷹をそっと押し倒す。

「や、はずかしい」

四つん這いで押し倒された飛鷹が震える

「今度は飛鷹も気持ちよくしてやらないとな」
「こんな格好いやあ」
「すぐに気にならなくなるさ」

括れた腰を挿まえ、後背位で一気に飛鷹を貫く。

「あっ……やっ……んっ……ふっ……いっ！」
「やっぱり飛鷹は後ろからの方が“いい”みたいだな」
「ちがっ！あんっ！やあ……だめ、あ、やだ、いっ！」

獣のような交わりに恥じらいながらも男が腰を降るたび激しく乱れる飛鷹。

ぼんっぼんっ
と飛鷹の尻肉に男の腹部が当たって淫らな音を響かせる。

言われるままに唾液でべとべとにした肉棒を
胸の谷間で挟みこみ。

「あっ……つうい」
「気持ちいいぞ飛鷹のおっぱい、最高だ……お返ししないとな」
「ひゃあ！……やっ……あっ……だめ、だめっ！」

飛鷹の尻を みしたきつつ、秘裂に舌を伸ばす。
本格的な秘所への愛撫に飛鷹が乱れる。
男は意に介さず愛撫を続けつつ
快楽に耐えるのに精一杯な飛鷹に
指示はせず腰使って乳房を犯す。

「やっ……だめっ、おっぱいもあそこも……だめなの……んっ！
……いっ……おかしくなっちゃう、ていと……くう！」
「いきそうなのか？飛鷹」
「いく？……や、だめ、いくの……だめっ！」
「だめじゃないから、ほら」
「あっ！やあ……だめ、でちゃうの、なんかでちゃう……あ！
あぁあぁっ！」

男の欲望を飛鷹の乳房にぶちまけると同時に
飛鷹も初めての絶頂に達する。
余程の衝撃だったのだから
ぶしゃっ！と股間から失禁してしまう飛鷹。

「あっ……あ、やあ……だめなの、おしっこ、とまんない……」

男の顔面に思い切りお漏らししてしまい
ガクガクと恐怖に震える飛鷹。男はやや苦笑いを浮かべつつ
タオルで拭き取り震える飛鷹を抱きしめてやる。

「まあよくあることだ、大丈夫大丈夫」
「だって、やだあ……」

ぼんぼんと震える飛鷹の背中を叩いてやり落ち着かせる。
浴槽から持ってきた桶に湯をはり、タオルを濡らす
半べそかいたままの飛鷹の身体を拭いて清めてやる男。

「くす……むっ……」

すっかり全裸になった飛鷹の肢体の美しさと
泣き顔に我慢できなくなる男。
自然胸と秘所に手が伸びる。身をひねって嫌がる飛鷹。

「やだ……そこざわっちゃ、だめえ」

また濡らすのが怖いらしい、高車な飛鷹の泣き顔に
男のしげやく心が刺激される。
我慢できず飛鷹を押し倒す。

「や、まって、いやあ」

聞き入れない男を「ほか、ほかあ」可愛らしく罵倒してくる
飛鷹。
その口を接吻で塞ぐ。

「んっ……ちゅ……はあ……んっ」

泣き顔が見る間に快楽に薄れた表情へと変化する。

■窓さんは何故ア三メにもでなさそうな飛鷹とゆう艦むすをネタに選んだのか読者と私に面白犯しく、そしてポジティブに説明する義務があると思うんだ。(盆)

■文章書き的には飛鷹は三次創作しがいのあるキャラなんですけど、ここからヤンデレに発展してもよい暗い過去、ツンデレ、ポシヨツ、サイコウじゃないですか！(窓)

■艦むす描きたい！ネタはおまかせしますせ〜と依頼しましたがまさかここまでガチな飛鷹本を描かされるとは思いませんでした。最後に窓さんには秘密でナカ表紙と奥付を利用して私が考えたふたつめのオチをいれといてみました。(盆)

■キャラの練りこみが足りなくていまいち可愛く描けなくて申し訳ない。時間とページ数のかねあいから特殊な形の内容になりました。当初はちゃんとしたマンガ形式のネームでいじってんですが、それにしてもテキストを自分で考えないで済むのがこんなに楽チンなんで、いつも作業が佳境にはいると言語機能まで作画力にまわしてしまうのでセルフ考えるのとか本当にキツイのですが〜

■実は絵を描いてるだけなら同人誌はけっこう楽しいぞい！

発行日：20141230
 発行：BOTTOMRESSPIT
www.5a.biglobe.ne.jp/~bottom-p
bonzakasi@mvd.biglobe.ne.jp
 pixiv1725774

印刷：有限会社ねこのしっぽ様

禁ネット転載ネット掲載ダウンロード厳禁。
 18歳未満の方の購入、閲覧を固くお断りいたします。



to be continued...?

比翼の鳥龍

輕空母
飛鷹提督調教
報告書